

日本学術会議基礎生物学委員会・統合生物学委員会・合同 遺伝学分科会
(第24期・第1回)

日時：2018年5月25日（金）10-12時

場所：日本学術会議5階 5-C（1）会議室

出席：城石、荒木（喜）、荒木（弘）、飯野、河野、小林、齊藤、三浦

欠席：岩崎、平田、森、

議事

（1）役員（委員長、副委員長、幹事）の選出

出席委員の自己紹介の後、委員の互選により城石委員を委員長に選出した。その後、城石委員長から副委員長として三浦委員、幹事として荒木（喜）委員の推薦があり、各々承認された。

（2）第23期の活動状況について

城石委員長から、第23期の活動として桂前委員長を中心として社会人の遺伝学リテラシーおよび大学と高校の生物教育について議論を重ね、その内容を「記録」として残したことの報告があった。今期もこれを引き継ぎ、日本学術会議の「報告」等の意見の表出を行う可能性を含めて検討することとした。

（3）遺伝学用語の改訂編集の現状と課題について

小林委員から、資料3に基づいて日本遺伝学会が進めてきた「遺伝学用語」の改訂編集の経緯や日本学術会議の報告「高等学校の生物教育における重要用語の選定について」の説明があり、その後意見交換を行った。遺伝学用語の選定については、学会や研究分野によって異なった意見もあるので、日本学術会議第二部や日本学術会議で重要用語の「報告」をまとめた生物科学分科会とも連携して、教科書用の遺伝学用語を対象に検討することとした。

（4）遺伝資源を巡る名古屋議定書関連問題について

城石委員長から、デジタル配列情報を名古屋議定書の対象に含めようとする国際的な動きについて、資料4日本学術会議の提言「生物多様性条約及び名古屋議定書におけるデジタル配列情報の取り扱いについて」に基づいて説明があった。この問題は、遺伝学や生命科学に影響が大きいことから、遺伝学分科会としても遺伝資源分科会や農学分野における名古屋議定書関連検討分科会とも連携して注視していくこととした。

（5）その他

なし